



7月号

平成27年6月30日発行

# 荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [Tel 911-0149]

アドレス [http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]

## ひこうき雲

校長 澤田 有子

学校の上空は、飛行機の航路となっているようです。プルプルプルというエンジン音を響かせながらゆったりと飛んでいるのは、単発プロペラ機。双発機も時々見かけます。轟音を響かせながらあっという間に飛び去っていくのは編隊を組んだジェット機。もつともつと上の空を見ると...一筋の白い線。

見上げた空にひこうき雲を見つけると、なんだか心が弾みます。田んぼから聞こえてくるカエルの鳴き声と、校庭を吹き抜ける緑の風と、高い空の上のひこうき雲、ちょっと素敵なお組み合わせではないでしょうか。ひこうき雲は航跡雲とも呼ばれ、今から60年ほど前から見られるようになった雲なのだそうです。飛行機が、高い空を速いスピードで飛ぶようになったことでできる雲。つまり、人間が人工的に作る事ができる唯一の雲なのだそうです。

ところで、この雲はどのようにして生まれるのでしょうか。高度6000m以上になると気温が低いために飛行機のエンジンから排気ガスとともに出された水蒸気が氷のつぶになり、雲が生まれるというでき方と、飛行機が高々度で飛ぶと、主翼などの後ろに空気の渦巻きができ、部分的に空気の温度を急に下げることによって雲が生まれるというでき方があるようです。実際には、両方の要因が重なってできる場合も多いようですが、エンジンの数によって雲の本数も違ってくるらしく、ボーイング747型機なら4本、ボーイング767型や777型なら2本の筋ができるので、地上から飛んでいる機種も想像できるのだそうです。また、ひこうき雲がそのまま空に残っていたり、徐々に広がっていったりする時には、上空の空気が湿っており、天気は下り坂になると予測することができるのだそうです。ふしぎ、不思議、ふしぎ大発見です。

荏田小学校の校庭から見る空は広く、学校の周りにはまだまだ自然が残されています。私たち人間もまた自然界の中で生かされている存在であることに気づかせながら『科学の目』を培い、子どもたち一人ひとりの『科学の芽』を伸ばすことができたらと考えています。

ねえ、休み時間に一緒にあそぼ！

うん、カエル捕りをしようよ

いいよ！何して遊ぶ？

うん、そうしょ そうしょ 今日はでっかいのを捕まえるよ

ドッジボールする？

～ アハハ アハハ バタバタバタバタ ～ (2年生)



### キウイフルーツの不思議

キウイは雌雄異株の木です。本校のキウイは雄株であるので実がなりません。雌株を植えようかと悩んでいた時に、米づくりでいろいろお世話になっている大久保様から、雌株を接ぐといいんだよと教えていただきました。そして、今年の2月にボランティアの皆様と一緒にその接ぎ木をしていただきました。5か月たった今、芽がしっかりと伸びてきています。大久保様はキウイを生産されており、給食でも何度かジュースで甘いキウイをいただきました。